

【参考資料】 平成22年度 実績報告（飛騨高山・宝の森間伐材テクJV）

作成日：平成23年4月28日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	67ha	45ha	67.2%	H23予定：85ha	施業同意レベル 作業道の同意時に間伐の同意 ももらっている
いつ	7月～3月	7月～3月		年間を通じて森林所有者に対する働き かけを行うが、杭打ちや、作業道の座 談会の時に施業の同意をもらう。 森林組合職員及び森林組合任命の地 域施業推進員による森林所有者への 働きかけを強化する。 不在地主の方にはあらかじめ連絡を 取った後に、文書を送付する。 個別訪問以外に現地説明会を開催し て施業集約化を推進する。	
誰が	施業集約化担当： 中田広之・細洞光 弘（森林組合）	施業集約化担当： 中田広之・細洞光弘 （森林組合）			
どういつ方法で	個別訪問 現地説明会	個別訪問 現地説明会			

下刈・除伐・枝打ち	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	6ha	3ha	50.0%	H23予定：2ha	
いつ	7月～3月	7月～3月			
誰が	飛騨高山森林組	飛騨高山森林組合			
どういつ方法で	枝打ち・下刈り	枝打ち・下刈り			

切捨間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	5ha	0.2ha	4.0%	H23予定：5ha	
いつ	10月～3月	10月～3月		年間を通じて切捨間伐を行う。 飛騨高山森林組合	
誰が	森林整備担当： 細洞光弘（森林組 合）	森林整備担当： 細洞光弘（森林組 合）			
どういつ方法で	利用できない林分 を切捨間伐	利用できない林分を 切捨間伐			

利用間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	15ha	8ha	53.3%	H22 予定：40ha	
いつ	10月～3月	10月～3月		年間を通じて素材生産を行う。 飛騨高山森林組合・愛宝産業 新規開設した作業道を積極的に活 用して利用間伐を行う。	
誰が	飛騨高山森林組 合・愛宝産業	愛宝産業			
どういつ方法で	搬出可能な箇所 は利用間伐	搬出可能な箇所は 利用間伐			

作業道開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.6m、L=2,000m	W=3.6m、L=0m	0.0%	H23予定：5,800m（基幹作業路）	開設コスト(3.6m)： - 円/m
	W=3.0m、L=1,600m	W=3.0m、L=392m（内自力98m）	24.5%	H23予定：2,700m（簡易管理路）	// (3.0m)：1,916円/m
	計 L=3,600m	計 L=392m	10.9%	計 L=8,500m	うちH22繰越分 2,300m含む
いつ	7月～3月	10月～3月		積雪期間以外は年間を通じて開設 を行う。 飛騨高山森林組合・林建協同組 合・FECカネマル 急傾斜地で、道下への落石が発生した原 因は、ブレーカーとバケットのこまめな交換 手間を惜しんだ結果である。ヘッドにクイ クヒッチをつけ、オペレーターに必要に応じ たこまめな交換を指示する。	
誰が	飛騨高山森林組 合・FECカネマル	飛騨高山森林組合・ 林建協同組合			
どういつ方法で	設計・飛騨高山森 林組合 施工・管 理：連携事業体	設計・飛騨高山森 林組合 施工・管理： 連携事業体			

素材生産	新規チーム設立 (H22)			内容	
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)				伐倒：チェーンソー → 集材：スイングヤーダ(0.45)とウィンチ付きグ ラッフル(0.45)の併用 → 造材：プロセッサ → 搬出～運搬：フォ ワーダ(6t) → グラッフル → ヒアブ付き10tトラック及び4tダンプ → 中間土場仕分け検知 → 大型トレーラー他	
素材生産チームの人員数(人)	実施前 → 実施後 (H22)			1チーム(3人/班)	
実稼働日数(日)				70	
素材生産性(m ³ /人・日)				3.6	
素材生産費(円/m ³)	H22計画(実績)			9,000(9,000)円/m ³	
年間素材生産量	計画(m ³)	実績(m ³)	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	1,500	471	31.4%	森プロ関係のみ	22年度に設立した新規チームは、年間 を通して森プロ団地内で素材生産を行 い、年度後半からは、愛宝産業と2 チームで、23年度の目標として4000 m ³ を目指す。
モデル団地外	-	-	-		
作業道支障木	-	277	-		
合計	1,500	748	49.9%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み

計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成 東支所管内(旧高山市、国府町、丹生川町、上宝町、奥飛騨温泉郷)で4名、西支所管内(清見町、荘川町、白川村)で2名、南支所管内(一之宮町、久々野町、朝日町、高根町)で3名、の9名を目標とする。	・酒井教授を講師に森林施業プランナー増員サポート事業を2日間実施し、森林整備に関わる23名はどちらかには必ず参加した。 ・現在、プランナーの数は本所に1名(西支所をサポート)、東支所に1名、南支所に2名となっている。	施業プランナーの養成(延べ人数)	森林所有者に対し森林施業プランを提案し、施業集約化を推進しながら更なるレベルアップ及びプランナーの更なる育成と増員を図る。組合内部で研修内容の水平展開を図る。
地域イベントでの普及啓発(年1回)	・美しい森林づくりin飛騨高山(2月27日)	地域イベントでの普及啓発(回数)	地域イベントでの普及啓発(年1回)
組合員及び関係事業者等との連携強化	・地区座談会の実施(5月、10月、3月)	地区別座談会の開催(回数)	必要に応じて地区座談会の開催
水の濁度調査	・未実施	地区別座談会、市町村森林管理委員会への報告(回数)	サンプルの採取箇所として、団地内の主要5水系の最下流部と、団地より上流の本流からの計6カ所を定め、最大濁水発生時から3日間のサンプル採取を行う。
林業機械メーカーへの働きかけ	・機械業者が営業で訪れた際の懇談の中で、担当者が要望を伝えた。	メーカー側に伝えた要望の内容を記録に残す(回数)	最新の機械を、一度短期間レンタルで使用し、作業員からの聞き取りを行う。
熊剥ぎ被害林対策	・未実施	対策の実施(面積)	現時点で補助対象となるテープ巻きを実施する。
低コスト作業システムに関する現地研修会	・未実施	現地研修会の実施(回数)	地元林業クラブの研修会として行う。
モデル林の設置	・未実施	モデル林の設置(箇所)	場所の選定と所有者の了解を取り付け、看板を取り付ける。
組合便りで森プロのPRを行う	・未実施	PRの実施(回数)	森プロの担当者が組合便りにおいて森プロについての原稿を作成する。
事業実施の効果影響に関する現地検討会	・未実施	現地検討会の実施(回数)	森林事業部にて現地検討会を企画し実施する。
森プロ1・2・3期生との情報交換	・未実施	情報交換会の実施(回数)	森林事業部にて情報交換会を企画し実施する。
全職員対象の現地研修会の実施	・未実施	現地研修会の実施(回数)	森林事業部にて研修会を企画し実施する。
宿働の森プロ担当者による現地検討会	・未実施	現地検討会の実施(回数)	宿働の森プロ担当者の退職を受け、森林事業部主催の事業実施の効果影響に関する現地検討会に統一し、企画、実施する。
国・県主催の各種研修会への参加	・施業プランナー養成基礎研修への参加(森林組合1名、連携事業者1名) ・フォレスター研修への参加(森林組合、連携事業者各1名)	研修会への参加(延べ人数)	・施業プランナー養成基礎研修に職員1名参加。 ・森林事業部において各種研修会の情報を全職員に通知し、参加を募る。